

齊信会ガーデンプレス

2023.夏号



齊信会 納涼祭

— INDEX —

- 理事挨拶
新藤理事より
- 納涼祭開催
- 花見川ワークサポート紹介
- 基幹相談支援センター
活動紹介
- 栄養だより
令和5年度 夏号
- 令和5年度 齊信会行事予定



\ Follow Me /
はじめました

Instagram

seishinkai2005



SEISHINKAI2005

チラシ無料ダウンロード広場



令和5年8月発行

発行元:社会福祉法人齊信会

編集人:広報委員会 発行責任者:大神和哉

住所:〒262-0018 千葉市花見川区畑町 591-17

電話:043-350-1550

斉信会での防災への取り組み

社会福祉法人斉信会 理事 新藤

日頃は、社会福祉法人斉信会の運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。
まずは、斉信会が防災対策に取り組もうとした経緯についてご説明させていただきたいと思
います。東部自治会の斎藤陽子氏は、千葉市防災井戸協力の家ということで、防災時に皆様へ水を届
ける取り組みを行ってまいりました。地域での継続発展を踏まえて、斎藤氏が創設者となった斉
信会が防災対策の一環として引き継いだ経緯があります。

皆様も記憶に新しい、令和元年10月に台風15号の豪雨災害が千葉市内を襲い、自治会内でも停電が長期に渡り発生して、苦勞された方が多かったと思います。被害が最小となるよう、自治会と意見交換を行い、令和2年12月に防災井戸を基幹相談支援センターの横に新設しました。

斉信会と自治会が経費を一緒に負担として、飲み水ではなく、生活用水として整備されました。これにより、災害時で停電が起きても安心して水をお配りできる体制が整いました。

お水の問題がひと段落しましたが、電気も確保しようとの思いから、斉信会で検討を重ね、最終的に大型発電機と太陽光発電、電気自動車を組み合わせた設備が今年の3月に完成しました。これにより、畑町東部自治会の皆様と畑町ガーデンでの生活をしている利用者様には、災害時に電気と水を確保できる体制が整いました。あっては欲しくない災害ですが、災害が起きてしまった時は畑町ガーデンへお越しいただき受け入れる準備をしてまいります。

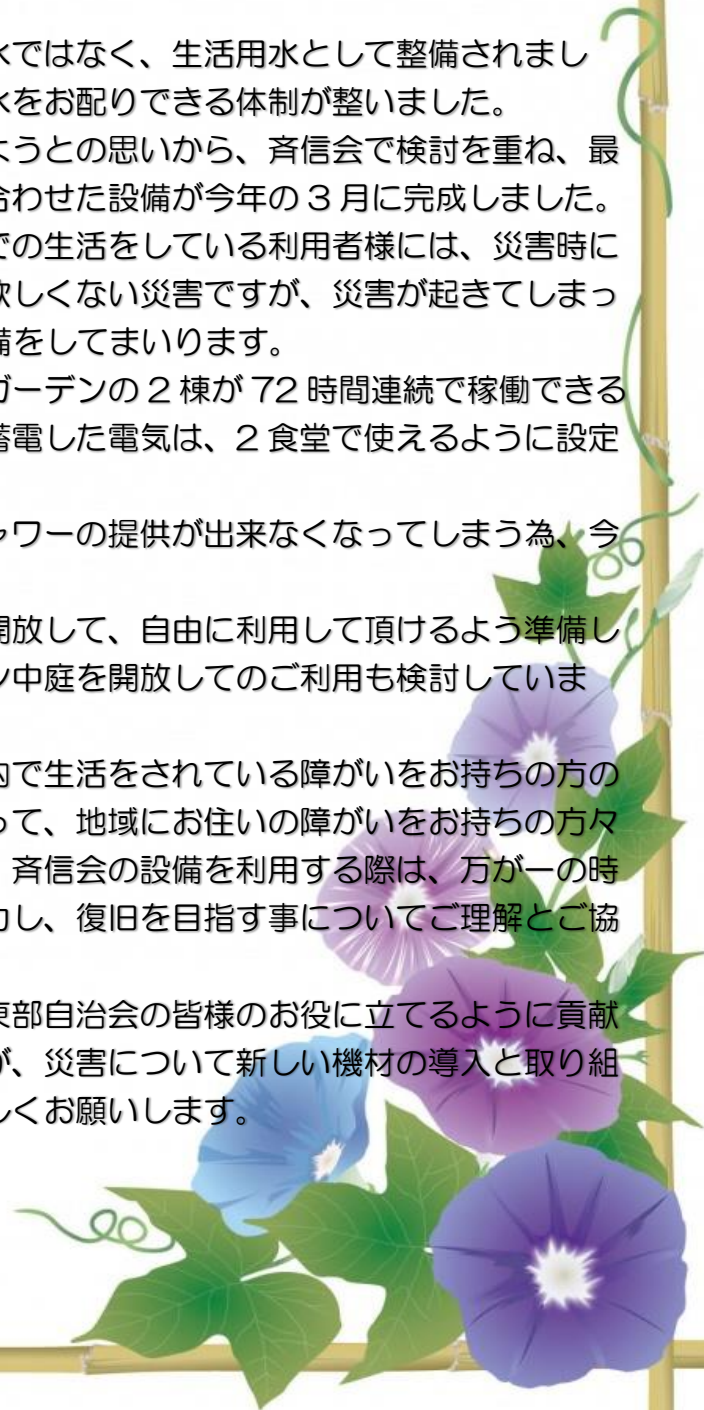
大型発電機だけで、畑町ガーデンと隣のすまいるガーデンの2棟が72時間連続で稼働できる容量となっております。太陽光発電と電気自動車に蓄電した電気は、2食堂で使えるように設定しており、太陽光発電は現在も使用しています。

ただし、ガスの供給が停止した際に、お風呂やシャワーの提供が出来なくなってしまう為、今後の課題と考え、取り組んでいきたいと思
います。

災害時は、すまいるガーデンを周辺住民の皆様へ開放して、自由に利用して頂けるよう準備しています。キャンプ道具をお持ちの方は畑町ガーデン中庭を開放してのご利用も検討していま
す。

斉信会は東部自治会の会員であります。千葉市内で生活をされている障がいをお持ちの方の避難所にも指定されております。災害時の状況によって、地域にお住いの障がいをお持ちの方々の受け入れを考えていく事が私たちの使命ですので、斉信会の設備を利用する際は、万が一の時は地域で暮らす障がいを持つ方やご家族の方々と協力し、復旧を目指す事についてご理解とご協力頂きたいと存じます。

私たち斉信会は障がい者支援の運営を行いつつ、東部自治会の皆様のお役に立てるように貢献させて頂ければと考えております。長くなりましたが、災害について新しい機材の導入と取り組みについてご説明させて頂きました。今後ともよろしくお願
いします。



令和5年度 納涼祭開催

コロナ禍も明け、政府の方針により新型コロナは5類へと引き下げのなか、畑町東部自治会主催の納涼祭が斉信会共催の下、畑町ガーデンの中庭にて開催されました。4年越しでの開催となりましたが、子ども神輿や千葉市宮野木道院様による少林寺拳法のパフォーマンス、和太鼓での演舞や参加型の盆踊りなど、多くの方々に参加して頂きました。

斉信会からは、中庭と一部の施設の提供だけではなく、防災訓練を兼ねた取り組みとして、「まかないくん」という名前の、災害時に電気やガスなどのライフラインが寸断された場合でも調理が行える特殊な機材を使用し、職員の操作手順の確認や機材の動作確認を行いながら、レトルトカレーなどの販売を行いました。また、地域の生活困窮者の方等への助け合いの支援を目的とした無料のバザーを出店し、株式会社千葉薬品、職員、保護者の皆様からのご協力もあり、多くの出品が行えました。

今年度の納涼祭は規模の縮小等もありましたが天候にも恵まれ、4年振りとは思えないような活気のある納涼祭となりました。主催である畑町東部自治会の皆様、そして参加して頂いた斉信会の利用者のご家族の皆様や地域住民の皆様、ありがとうございました。



花見川ワークサポート生活介護について

こんにちは。花見川ワークサポート生活介護担当の青柳です。今回は今年度より新たに開設されました花見川ワークサポート生活介護について紹介させていただきます。

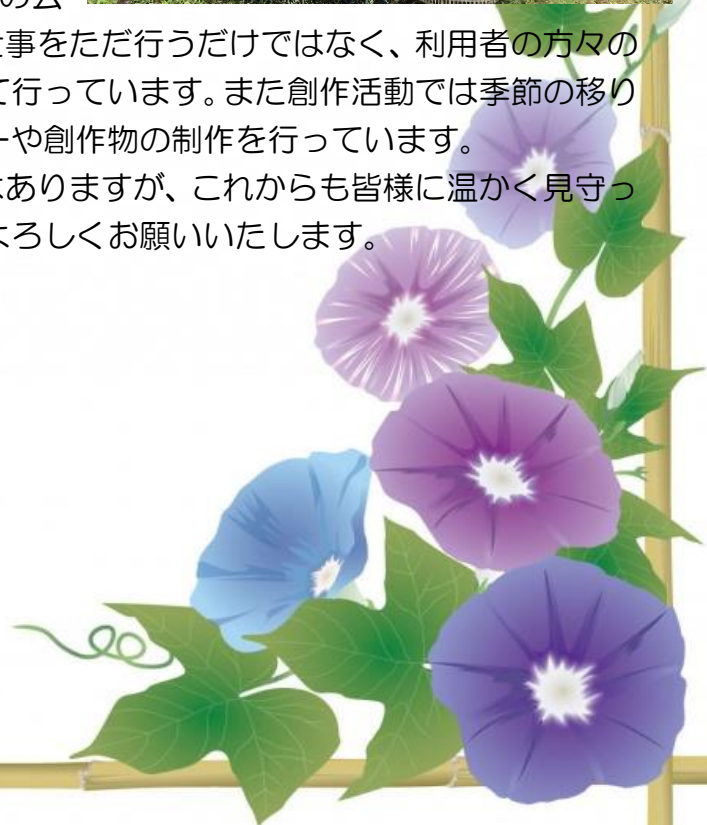
現在、花見川ワークサポートは利用者定員14名の就労継続支援B型と利用者定員6名の通所生活介護に分かれており、通所生活介護では、現在5名の方が利用されています。開所当初、生活介護棟は工期の遅れから4月1日時点で未完成だった為、完成までの2週間、畑町ガーデン敷地内に併設されている、すまいるガーデンを利用して頂く等、利用者の方々にもご不便をお掛けしてしまいました。しかし時間をかけて完成した生活介護棟は齊信会が今まで培ってきた経験を活かし、生活介護にて必要な機能面（トイレやシャワールーム、更衣室等）が使いやすく設計されています。是非一度施設見学にお越しください。



作業内容につきましては、屋外では園芸作業として畑周りの除草作業から作物の収穫、缶作業（缶潰し、缶洗い）、ウォーキングを行い、屋内では各受注作業（タオル畳み、チラシ折り、コサージュ作り等）や季節に合わせた創作活動を行っています。園芸作業ではワークサポートにある畑の一面を使用し、知識・経験があるB型の職員に助言を受けながら、現在はじゃがいもの栽培を行っています。ウォーキングは利用者の方々安心して生活できるための体づくりを維持だけでなく気分転換も兼ねて近隣の公園で行っています。受注作業では業者から受注した仕事をただ行うだけではなく、利用者の方々の行えることの可能性を広げることも大きな目的として行っています。また創作活動では季節の移り変わりを大切にしながら感じて頂けるようカレンダーや創作物の制作を行っています。



開設して僅か3ヶ月であり、まだまだ発展途上ではありますが、これからも皆様に温かく見守って頂けるよう頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。



花見川区障害者基幹相談支援センター

千葉市の規模

基幹相談支援センター業務を始めて気付いたことの一つに千葉市の規模感があります。

千葉市は人口総数が約98万人で、これは山梨県の総人口約80万人を上回るものです。花見川区は17.7万人で中央区に次ぐ規模であり、習志野市（17.6万人）・浦安市（17.2万人）とほぼ同じ（いずれも令和5年6月現在）。あくまでもひとつの目安ですが、区内の手帳所持者数は8,711人、市内では48,480（少し古くて令和4年3月現在）、この規模感の中で市民のニーズが生まれ、社会的資源を活用しているということで、そうしたところから生じる地域の課題や福祉的ニーズには様々なものがあります。

基幹センターが始まり、もうじき3年

千葉市障害者基幹相談支援センター開設から2年余、花見川区では月平均70余名、月約260件（いずれも延べ数）の相談に対応しています。

障害に関連した一般的な相談・個別の相談の他にも、支援機関や行政・医療機関からの問合せや紹介・連携、医療的ケア児等への地域での寄り添い、入院中の病院から地域への橋渡しやその逆に医療や福祉に繋ぐケースもあります。

また、刑務所等から地域に戻る際の準備や再び罪を犯して後戻りしないようにする取り組み、地域生活維持が困難になりそうな緊急事案ケース対応、啓発活動もしています。

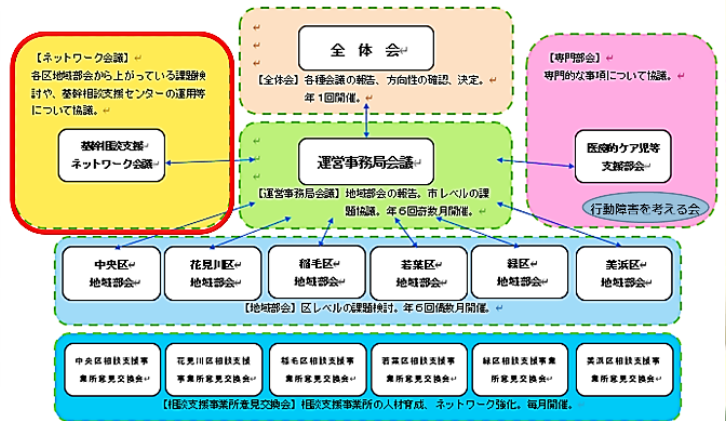
花見川区での相談の障害区分を分けると精神障害が約4割（発達障害・高次脳機能障害を含めると半数に及び）、次いで知的障害、身体障害となります。高次脳機能障害、知的障害、精神障害といった方々は同じ方が何度もとか、継続して関わることが多くなりがち、また、相談対応にかなり専門性が高い、また支援困難になりやすいケースも多くあります。

また一見、福祉サービスの利用等に関するものとみられがちですが、実はもっと根深く奥深い要因があったということがしばしばあります。本人のサービス利用の希望をニーズとして表面的に捉えてしまうと、その裏に隠れている本質的なニーズが、実は主訴であることを見逃してしまうことになりかねません。ご本人が語るニーズの裏に、様々な主訴があることを見抜かなければならない、相談員の力量が問われます。

千葉市基幹相談支援センターネットワーク

市基幹相談支援センターでは手帳の有無を問わず、障害に関係すると思われる相談は全て受け、各区基幹相談支援センターは、規模に応じて4~6名の体制で対応しています。6区の基幹相談支援センターでは、千葉市障害者基幹相談支援センターネットワークというものを作り、行政を交え、自立支援協議会（運営事務局会議、地域部会、相談支援事業所意見交換会等）の運営や地域の課題について、毎月のミーティングで協議しています。また、困難事例への対応として相談支援事業所の抱える困難ケースに関わることや相談員の後方支援的役割も重要な業務として、事例検討会や研修会を開催し、地域の相談員の人材育成の支援を行っています。

千葉市地域自立支援協議会の体制



10月21日に学校を核とした1000か所ミニ集会を終えて

10月21日（木）に学校を核とした1000か所ミニ集会が開かれました。今年度は、「子どもたちが地域で豊かに暮らすために」をテーマに、花見川区障害者基幹相談支援センター管理者の近藤様より、昨年度千葉市に設置された「障害者基幹相談支援センターの役割」について講話をしていただきました。本校からは、就労支援コーディネーター、進路指導主事より「学校と障害者基幹相談支援センターとの連携」について、本校の取り組みを紹介しました。また保護者からは、「センターの活用」に対する思いを話していただきました。その後の意見交換では、保護者の皆様からの感想や御意見に加え、参加していただいた中学校からも地域の中学校が抱える実情を踏まえた質問が出されるなど、障害者基幹相談支援センターへの関心や期待の高さが感じられることとなりました。今回は会場参加の保護者に加え、オンラインにおいて多くの保護者や地域の小中高等学校からの参加がありました。また、各区障害者基幹相談支援センターや千葉市障害者福祉サービス課の関係者の皆様も参加をいただきました。



基幹支援センター配置のふたつのコーディネーター 医療的ケア児等コーディネーター

2021年9月に、“医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律”が施行され、人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児とその家族への支援施策が本格化。千葉市では基幹相談支援センターに関連分野支援機関との連絡調整を行う医療的ケア児等コーディネーターが配置され、医療的ケア児等専門部会で児者家族の就学や防災に積極的に関わり評価を得ています。

拠点コーディネーター

地域生活をする障害の方の家族が緊急時立ち行かなることに備えて、地域生活支援拠点等事業が各市町村等で進められています。千葉市では2022年4月から基幹相談支援センターが地域生活支援拠点等事業も担うことになり、地域のネットワーク作りを率先して進める拠点コーディネーターを置くことになりました。

拠点等は各市町村が、緊急時の箱ものを平時にどう維持するか、緊急時にどう使うかで苦労する中、千葉市基幹ネットワークは、緊急時の前段階、拠点の5つの機能のうちの「予防・慣れる・訓練準備」に着目し、緊急事態を予測し備えることから始めようと呼掛けています。親御さんには「親亡きあとなんて考えたくない」などと言われる難しさもありますが、いざというとき慌てないために少しずつ準備し慣れて行きましょう。

これからの相談支援事業は

相談支援は障害福祉サービスの背骨のような存在といわれます。それは、ひとつの世帯の中で、或いはひとりが抱える課題や困りごとが増えたり複雑化して、『何から?どこへ?相談したら良いかわからない』状態になったり、自分が困っていることに気づかない人もいたり、相談支援も分野や世代を問わず、包括的に相談を受け止め・支援機関のネットワークで対応・適切に多機関協働に繋ぐ『包括的相談支援』が必要になり、あちこちを繋ぎながら支える役目になるからです。障害の他にも、ひきこもりや依存症への科学的根拠に基づく理解や当事者団体との連携、本人ばかりでなく家族も含めた8050、介護分野や困窮分野との連携も欠かせません(基幹では、花見川団地で介護/困窮/障害の3相談機関がコラボした出張相談会を企画しています)。もちろん医療分野とは言わずもがなです。

今後出来るだけ丁寧に、地域の様々な人たちと繋がりながら相談に応じて行きたいと考えています。

千葉県内の基幹相談支援センターの動向

千葉県には、子ども、障害者、高齢者等、誰もがありのままに、その人らしく地域で暮らすことができる地域社会の実現に、独自の中核地域支援センターが設置されています。制度の狭間や複合的な課題を抱えた方など地域で生きづらさを抱えた方に対して、24時間365日体制・分野横断的に、包括的な相談支援・関係機関へのコーディネート・権利擁護等、広域的で高度専門性をもった寄り添い支援を行っています。基幹の先輩格として既に連携協力をしているところで、千葉市基幹ネットワークも中核連絡協議会の準会員です。

基幹相談支援センターは障害者総合支援法で、地域における相談支援の中核的役割を担い、総合相談支援機関として国・県も設置促進しており県の直近データでは46ヶ所が設置されています。

障害者差別への啓発活動(2023.07.千葉みなと駅)



令和5年7月3日(月)7時~8時30分 JR千葉みなと駅 遊歩ロータリー付近にて啓発チラシを配布しました。朝の通勤時に啓発のティッシュ450枚、障害者差別解消法チラシ500枚、ヘルプカードチラシ250枚の配布を行うことができました。足を止めてくださった方、ありがとうございます。



- *参加者*
- 千葉県健康福祉部福祉推進課
 - 千葉県中央障害者相談センター 広域専門支援員
 - 千葉県障害者自立支援課
 - 千葉県障害者就業支援キャリアセンター
 - 障害者・就業センター千葉障害者キャリアセンター
 - 千葉市をつなぐ育成会
 - 千葉市花見川区障害者基幹相談支援センター
 - 千葉市稲毛区障害者基幹相談支援センター
 - 千葉市若葉区障害者基幹相談支援センター
 - 千葉市美浜区障害者基幹相談支援センター
 - 千葉市中央区障害者基幹相談支援センター



個人でできる SDGs の取り組みについて

SDGsの17の目標



今回は、個人でできる身近な取り組み第2弾をご紹介します！

節電・節水を心掛ける

日本人1人あたりの水の使用量は1日約235L。これは世界平均の約2倍！地球は水の惑星と呼ばれ、地表の70%が水におおわれていますが、その中でも人が飲む事が出来るのは0.01%だけ。

また、地球環境の悪化により世界中で水不足が深刻化しています。電気や水は、作る時から使うまでの間にたくさんのエネルギーが消費されます。節水は、節電やCO2削減にも繋がるので、こまめに電気を消す、水を出しっぱなしにしないなど、無駄遣いをなくすことから始めましょう。

キッチン

食器をため洗いすると

1回で約90L

1か月で約**5,400L**^{※3} 節水
(4人家族の場合)

1か月で約**5.3kWh**^{※1} 節電に貢献 = テレビを毎日約**6時間**^{※2} つけていること

お風呂

シャワーをこまめに止めて使うと

1回あたり約8L

1か月で約**960L**^{※4} 節水
(4人家族の場合)

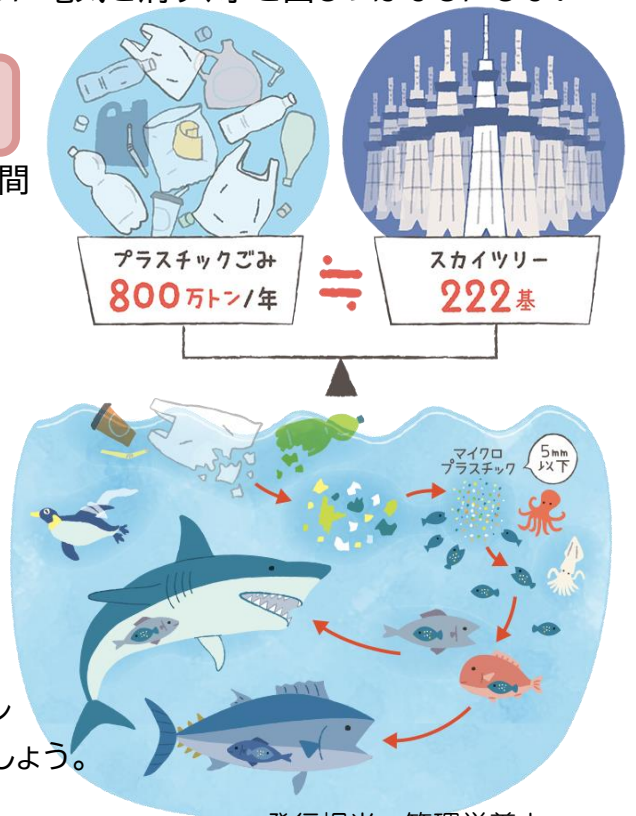
1か月で約**0.9kWh**^{※1} 節電に貢献 = テレビを毎日約**1時間**^{※2} つけていること

マイバッグやマイボトルを活用する

世界のプラスチック生産量は1964～2014年の50年間で20倍以上にふえていて、さらに今後20年間で倍増すると予想されています。プラスチックが河川などに流れて海に大量に流出しており、その量は毎年800万トン以上になると言われています。このペースが続けば、2050年には海のプラスチックごみの重量が魚の重量を上回る計算になります。

プラスチックごみは海を汚すだけでなく、海の生き物やそれを食べる私たち人間にもさまざまな悪影響を及ぼし、年間で1人あたりキャッシュカード1枚分のプラスチックを食べている計算になります。

プラスチックごみを減らすために、マイバッグやマイボトルを持ち歩き、使い捨て製品の使用を削減するよう意識しましょう。



令和5年度 齊信会行事予定

	畑町ガーデン (施設入所)	畑町ガーデン (生活介護、自立訓練)	畑町ホーム 通勤寮	ちぐさホーム
8月	夏季帰省(10-15) 給食停止(11-12) 個別支援計画会議	活動日(5、19、26) 夏季休業11-15) ウルトラ運動会 個別支援検討会議(共通)	寮生会議(23)	
9月	秋季帰省(15-18) 給食停止(16-17) 個別支援計画会議	活動日(9、30) 個別支援検討会議(共通)	個別支援計画 寮生会議(27) 避難訓練(27)	避難訓練 個別支援会議
10月		活動日(7、28) ナイスハートスポーツ大会	寮生会議(25)	防災訓練自主点検

	こてはし ガーデン	花見川 ワークサポート (就労継続支援B型、 生活介護)	法人
8月	活動日(5、19、26) 夏季休業(11-15)	活動日(5、19、26) 夏季休業(11-15) ウルトラ運動会 個別支援会議	自家発電機稼働 (災害対策訓練) 運営会議(24) 全体会議(27)
9月	活動日(9、30) 個別支援会議・面談 避難訓練 日帰り外出	活動日(9、30) 避難訓練 防災訓練自主点検 個別支援面談	運営会議(21) 全体会議(18) 畑町食堂(29)
10月	活動日(7、28) 防火設備自主点検 ナイスハートスポーツ大会	活動日(7、28) ナイスハートスポーツ大会	運営会議(19) 全体会議(21)

※カッコ内の数字が実施日となります
※諸事情により中止・延期となる場合があります